

左官 壁ぬり

「左官」とは、建物の壁、床、土塀等を、コテを使って塗り上げる仕事です。



対象者

中学
2年生

所要時間

講義 20分
体験 50分

材料リスト

- 新京壁 3袋 [プレミックス材]
 - 壁 [木製] 約2畳分
- 参加者数
約20名分の
目安分量

使用工具リスト

- 中首本焼き鏝 [6~7寸]
 - ステン鏝 [6~7寸]
 - 鏝板 [小]
- 参加者
4名につき
1丁

講義

左官職人の仕事について。何十種類もある「コテ」の説明、仕事を選んだ理由や苦労したことなど。

体験した児童・生徒の感想

- ムラなく、きれいに塗るということが、すごく難しくて大変でした。その道にはその道のプロがいると、改めて感じさせられました。
- 左官という仕事は、家や学校にいて、簡単にできることではないので、とてもいい体験になりました。
- 難しいことを、優しく丁寧に教えてもらったので、とても楽しい時間が過ごせました。
- コテで柄をつけるのは、すごくきれいで、かっこ良かったです。

- 機会があったら、また壁ぬりを教えてほしいです。
- コテの種類がたくさんあり、1つのコテでも難しいのに、数種類のものを使いこなすのは、やっぱりすごいと思いました。
- 道具に、ものすごい数があることにビックリしました。



担当教員の感想・要望など

- 土とかドロとかに触れる機会が少なくなっている生徒達に対し、手作業のすばらしさを身近なもので体験させたいという思いから、本体験の実施を導入しました。
- 生徒達には、「終礼」等の時間を利用して、体験教室の概要、指導者の紹介、当日の注意事項等を説明するとともに、興味を持たせるように指導しました。
- 70分という短い時間の間に、生徒達の眼差しが変化していくことに興味を覚えました。
- ものづくりのすばらしさを、自らも体験できたことから、今後も継続できるように努力していきたいです。

作業工程の概要



- 活動時間が短時間であるため、事前に、指導者側で、壁（木製）及びプレミックス材（密閉して凝固しないように注意）を製作しておきます。
- 指導者による製作実演壁の塗り方を実演し、生徒達に壁の塗り方を伝えます。
- 生徒達の体験活動（壁塗り体験）
- 短時間では、技術的に難しいことは伝わらないため、壁を塗る順序等の基本動作を中心に教えます。
- ノミコミの早い生徒には、コテ返し（コテ板から材料を取る動作）等の技術にも挑戦してもらいます。
- 講義では、石膏や光る泥団子等の展示品を手にしながら、仕事内容、大変なこと、やりがい等について話し、生徒からの質問にも答えます。



学校側との事前調整事項等

- 実施する教室と、生徒1グループの人数の確認を行いました。
- 作業机、材料、使用工具等のレイアウトについて、調整を行いました。
- 生徒達への説明に関し、教員との役割分担を決めておきました。

安全作業上の注意事項

- コテで手を切らないように注意します。

指導者からのアドバイスなど

- 初心者でも塗りやすい材料（ノリ捏ねの土）を用います。
- 短時間では、技術的に難しいことは伝えられないため、まずは、「ものをつくり上げる過程の楽しさ」を知ってもらうことを重視し、生徒が「コテを持つ感覚」を体感できるように工夫します。
- 生徒達の目を見て話します。
- 今の若い子は、昔ながらの自然素材（土と石灰）でできた壁を、身近に感じる事ができない住環境にいる場合が多く、左官の仕事に接する機会が少ないことから、左官の仕事を生近に感じてもらうことが難しい面もありました。
- 生徒達からの礼状を読み、少しでも何かを感じてくれたことが分かり、嬉しく思いました。

協力

- 新潟県技能振興コーナー（025-283-2155）
- 三宮 敬三（ものづくりマイスター：左官）
- 新潟市立濁川中学校